

平成27年度
兵庫県立尼崎小田高等学校
学校評価報告

兵庫県立尼崎小田高等学校学校関係評価委員会

1 平成27年度学校評価の経緯

昨年度に引き続き、尼崎小田高等学校では学校評価の改善に取り組んだ。本年度の主な改善点は次の2点である。

- ①昨年度から当該年度中に各分掌が重点的に取り組んだ学校活動を掲げ、その到達度を問う形式に変更したが、本年度は一步進め、年度当初に各分掌が最重点課題と具体的な到達目標を設定し、職員ならびに保護者・生徒に広く知らせる。このことによって評価のポイントや基準を明確にし、今後の学校改善に資する学校評価をめざす。
- ②従来年末に1度だけ実施していた学校評価に関わるアンケートを前後半の2度実施することで、職員のPDC Aサイクルの活動を促し、より機動的な学校改善をめざす。

この方針に従って、1月中旬に学校評価に関わるアンケートを作成・実施し、学校評価の基本資料を作成した。

表1 学校評価に関わる日程について

4月 1日 (水)	校務運営委員会にて年間指導方針ならびに最重要課題策定を依頼
5月13日 (水)	職員会議にて年間指導方針を承認 さらに、各分掌の最重要課題とそれに関わる具体的な施策・数値目標を承認
5月26日 (火)	第1回学校評議員会にて、本年度の学校評価方針を報告
5月27日 (水)	『小田高通信』第1号に最重要課題と具体的施策・数値目標を掲載。
9月 7日 (水)	職員会議で各分掌より最重点課題の進捗状況を報告した上でアンケート実施
10月 5日 (月)	校運にてアンケート結果を報告。5段階評価の数値だけでは不十分との結論に再度記述形式のアンケート実施を決定
10月14日 (水)	職員会議にて再度記述式アンケートの実施を依頼
10月26日 (月)	校運に前期アンケート結果(記述を含む)を報告
10月27日 (火)	第2回学校評議員会にて、前期職員アンケートの結果を報告
1月 7日 (月)	職員会議にて、学校評価に関わるアンケート実施(生徒・保護者、職員)を依頼
1月中旬	生徒への学校評価に関わるアンケートをHRにて実施 保護者に学校評価に関わるアンケートを実施
2月 1日 (月)	校務運営委員会にて学校評価に関わるアンケートの結果を報告
2月13日 (月)	学校評議員(兼学校関係評価委員)にアンケート結果を送付
2月20日 (月)	学校関係評価委員会(第3回学校評議員会)を開催

2 平成27年度重点指導方針

平成27年度に各分掌が掲げた重点指導方針ならびに具体的指導目標(◎)は次のようなものである。

(1) 総務部

校内の減災体制を確立し、安全で良好な教育環境づくりと防災教育の推進をはかる。

◎減災マニュアルを全面改定し、その内容を職員・生徒・保護者に広く知らせる。

(2) 教務部

多様な学力観にもとづく、多面的な評価方法の実施について研究推進する。

◎生徒の能力、適性、興味・関心、態度などについて、教科の特性に応じた評価方法を検討する。

(3) 生徒指導部

基本的な生活習慣の確立に努め、情報化の進展にともなう諸問題の解決を図る。

◎①時間厳守を基本に体調管理に努める指導を実践する。

②生徒会を中心にクラブアワーや部長会(SPC)の活動を通じて部活動の活性化を図る。

③情報化の進展にともなう課題の対応やマナー指導を集会等を通じて充実させる。

(4) 進路指導部

学習習慣の定着・家庭での学習時間の確保につながる指導の徹底を図る。

- ◎学年・教科と連携して、サマースクールや平常補習、さらに家庭学習のための課題の出し方等について一層の検討と工夫を促す。
- 各教科平均点の全国偏差値を〔現状+1〕を目指す。
- (5) 保健部
生徒が、定期健康診断の結果を自身の健康と結びついて考えられるように、適切な保健管理、保健指導を行う。
- ◎保健だよりやブラックボード、掲示物等によって積極的に情報提供する。
- 受診勧告書に詳しい説明をつけることで、何を指摘されたかわかりやすくする。
- 受診率50パーセントをめざす。
- (6) 図書情報部
生徒の読書習慣の形成を図り、貸出数の増加を目指すとともに、学校業務の改善に資するシステムの構築に取り組む。
- ◎年間貸出数の2割増加を目標とする。そのために多読賞の表彰、読書会活動の活性化、1年オリエンテーションの実施に取り組む。
- (7) 学力向上委員会
授業評価活動を通じて、授業の充実を図り、生徒の学習量の増加や授業に向かう姿勢の向上および進路実現につなげる。
- ◎授業評価アンケートにおける全職員の授業満足度の総合平均を5段階の4レベル（満足している）に引き上げる。
- (8) 第1学年
個別指導（HR担任と教科担任との連携）を通して、生活習慣および基礎学力の定着を図る。
- ◎HR担任と教科担任が日頃から連絡を取り合う。
- (9) 第2学年
生徒ひとり一人に自己管理と進路目標の設定を促す指導の徹底を図る。
- ◎遅刻、欠席、早退を生徒総数の2%以内にする。
- 課題未提出者を5%以内にする。
- 実力テストで全科目平均30点以上(MZTT)とする。
- 学校評価アンケート 満足度90%超とする。
- (10) 第3学年
進路実現を可能にする学力を身につけさせ、きめ細やかなサポートで一人ひとりの目標を達成させる。
- ◎生徒一人ひとりの学習計画に模試結果や進路情報が反映されているかどうか、能率手帳や面談を通じて指導する機会を増やす。
- (11) 国際探求学科
豊かなコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけさせるとともに、一人ひとりに最適な方法で進路実現を図る。
- ◎学科行事ごとに生徒アンケートを実施し、すべての行事においてプレゼンテーション能力の向上を実感した生徒の割合を80%以上にする。
- (12) サイエンスリサーチ科
教科学力育成と探究力育成を両輪とした新しい学力を育成するため、自宅学習の充実と探究活動への前向きな参加を促す。
- ◎計画的な課題の実施と自宅学習時間の自己チェックによる振り返り活動を指導する。探求活動への参加を促す、効果的な説明と紹介を定期的におこなう。
- 一年前に比較して、達成を5割以上の者に実感させる。
- (13) 看護医療・健康類型
1期生は進路実現のための支援体制の充実ときめ細かな取り組み。
- 2期生は学習の仕方の徹底と現場で働き続けるための土台（コミュニケーション、思考力、創造力、自己理解・他者理解、社会認識力等）を身につけさせる。
- 3期生は特色類型合格者集会や施設見学を充実させ、「小田高校」に来てよかったと思えるようにする。
- ◎1期生：放課後・休業中を活用した間断ない面談、特色選択科目・総合的学習の時間を利用した志願理由・面接・小論文指導、教科・学年と連携した教科指導を行い、生徒の満足度を80%以上にする。

2期生：特色選択科目・探求基礎等における授業や行事を通して学習の仕方の指導や将来働くための土台作りをおこない、満足度を80%以上にする。

3期生：特色選抜合格者集会や施設見学の内容を充実させ、「小田高校に来てよかった」という満足度を80%以上にする。特に、将来就きたい仕事を確定することを1年間の目標とし、「働くプロに聴く会」をひとり一人の生徒のニーズを重視しながら、実施する。

この内容は平成27年5月27日発行の『小田高通信』第1号に掲載し、生徒・保護者に公開した。

3 教職員評価（自己評価）

教職員には前後期2度にわたってアンケートを実施した。

前期は9月に実施し、各分掌が掲げた重点指導方針の到達度について5段階（0～4）で評価した。また、これとは別に各分掌の評価できる点、改善を要する点を記述方式で回答を求めた。

また、後期には次の4つの問を設けて実施した。

- 問1 各分掌が掲げた重点目標に関する達成度と評価・改善点
- 問2 生徒指導（教科指導を含む）および学校業務に関する自己評価の20項目
- 問3 生徒指導に関する学校全体の評価、学校経営に関する評価の20項目
- 問4 本校教育の改善に関する提言

表2は各分掌が掲げた重点指導目標の達成度を5段階（0～4）で尋ねた回答を、昨年9月に実施したものと合わせてまとめたものである。これによると、9月に実施したアンケートよりも達成度はいずれの部署も高く評価されており、年度末に向けての改善の深化が見て取れる。なかでも、生徒指導部、保健部、図書情報部、学力向上委員会、国際探求学科については「わからない」を除くと、「よくできている」「どちらかといえばできている」と評価する回答が全てを占めている。これは、これらの分掌が、掲げた目標を着実に実行していったと評価されたことに併せて、目標がより具体的であったこともその要因の一つにあげることができる。管理部門に比して、進路指導部や学年、科・類型など直接生徒と関わっている部署には比較的厳しい評価がされている。

表3は問2と問3（ともに1～4の4段階評価）をあわせと4つの事象から職員自己評価をまとめて表現した（質問項目については、「資料編」に掲載）。

グラフの構成は次のようになっている。

- ①右半分 問2の職員自身に対する評価
上10項目 生徒指導に関する項目、下10項目 学校業務に関する項目
- ②左半分 問3の学校全体に対する評価
上10項目 生徒指導体制に関する項目、下10項目 学校経営に関する項目

これをみると自己評価の面では、教科指導全般に自信を持ち、職務全般に対して高いモチベーションと責任感を保持している。その中で校務分掌の負担が適切ではないと感じ、情報活用能力の向上や文科省や県教委の指定を受けた事業への参加等、新しい事業への関わりや技量が十分ではないと感じている。

一方で、学校全体に対しては、いずれも厳しい評価を下している。そのなかにあって「本校の伝統」とされているきめ細かな進路・生徒指導等と、SSH事業や学力向上推進サポート事業など本校が進めている特色ある事業に関しては積極的に評価していることがわかる。

問4についても、多数の意見が寄せられたが、おおむね次のような意見が多かった。

- (1) 各部・学年の指導が先行し、学校全体の指導方針が見えにくくなっている点を改善する。
- (2) 職務の過重な負担を緩和し、一人ひとりの生徒に関われる時間を増やす。
- (3) 言語活動の充実やアクティブラーニングなどの新しい学習指導に積極的に取り組む。
- (4) 職員体質を改善し、協力体制をより強固なものとし、情報交換を積極的におこなう。

表2 分掌別重点目標達成度（職員評価 上 1月 下 9月）

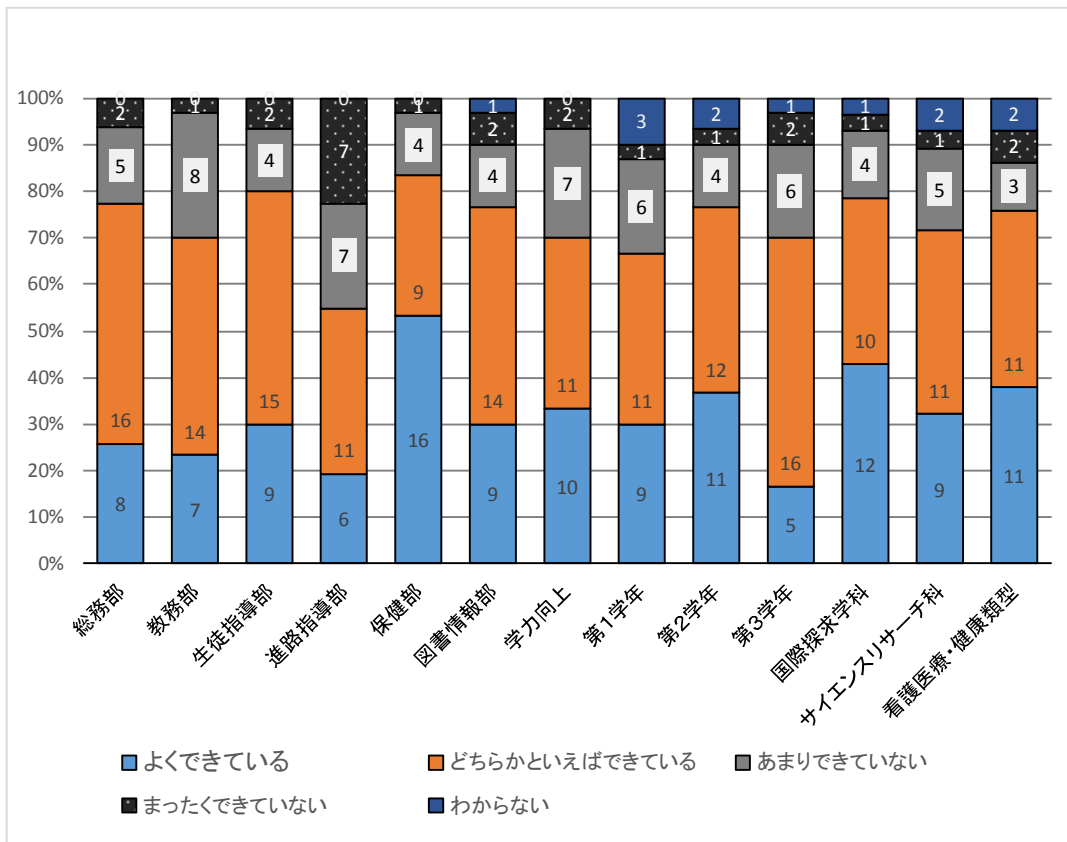
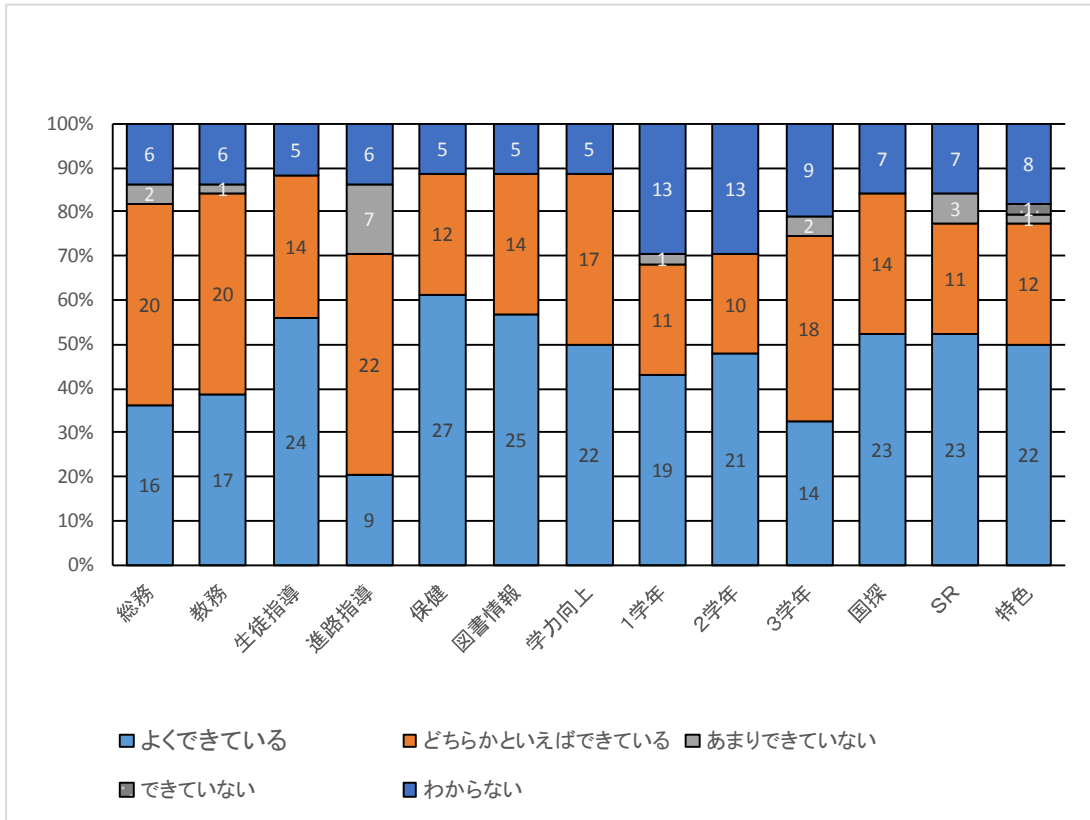
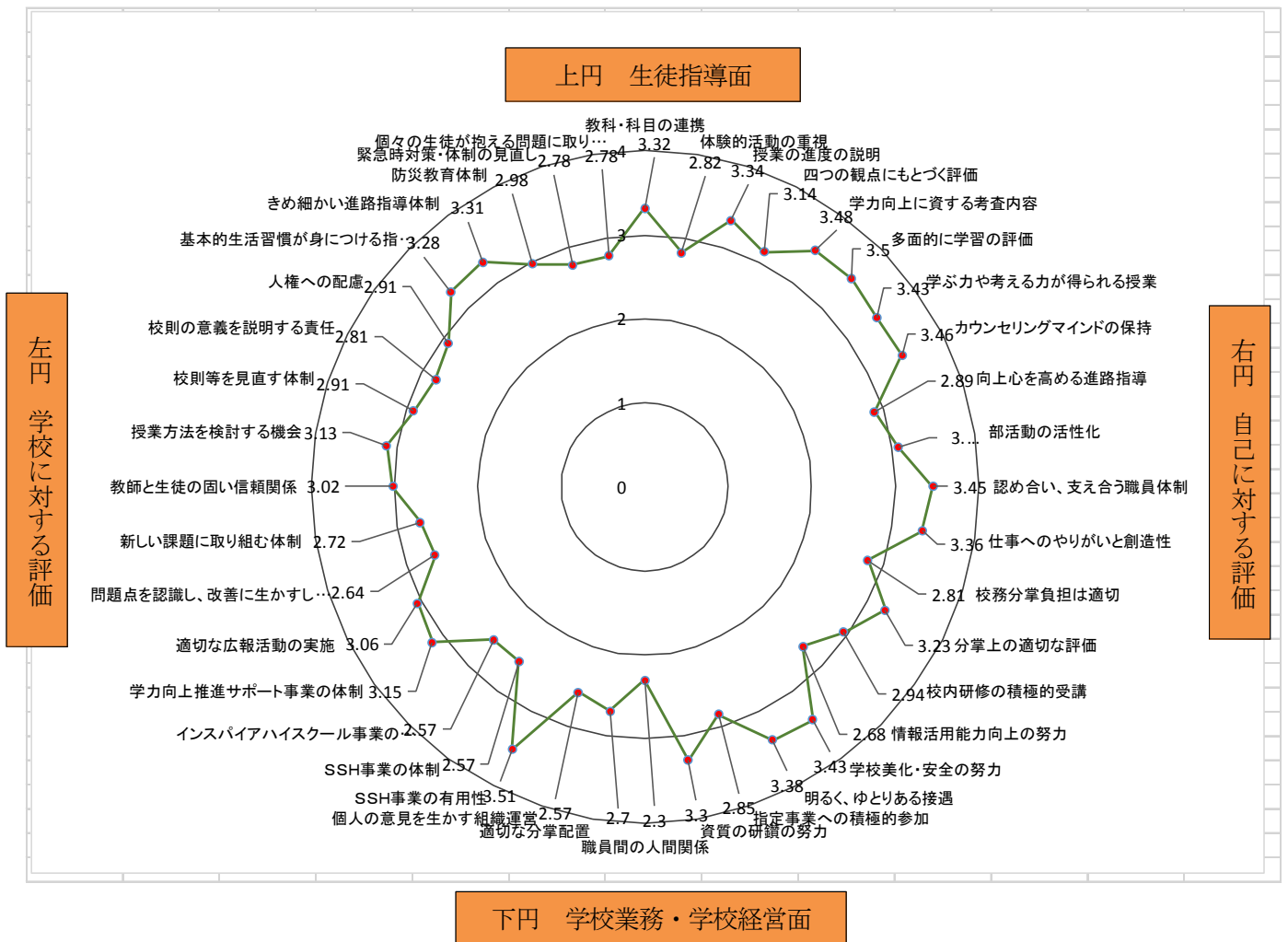


表3 教職員評価



4 生徒および保護者の学校評価に関するアンケートの結果

生徒および保護者による学校評価にかかわるアンケートについては、実施時期を12月から1月にずらし実施した。その回収率は次の通りである。

生徒 回答857件（在籍生徒数868名） 回収率 98.7%

保護者 回答636名（在籍生徒数868名） 回収率 73.3%

生徒および保護者に対するアンケートについては、大きく分けて次の3つの内容を尋ねた。

- (1) 質問1～13 各部署が掲げる今年度の重点指導目標についての到達度、
- (2) 質問14～15 本校の広報活動に関する関心度
- (3) 質問16～23は本校に対する満足度。

まず、重点指導目標に対する到達度について（表4）は、本年度あらたに「わからない」という項目を加えたことで、到達度に加えて認知度も探った。すると、職員とは反対に管理部門の達成度については生徒・保護者ともに「わからない」が4割に達しており、こうした分掌の活動の情報をいかに伝達するかという課題が残された。これに対して本校の特色であるサイエンスリサーチ科・国際探求学科、看護医療・健康類型については、達成度は高いと実感されている。

次に、広報に関する関心度については（表5）、生徒は「学年通信」をもっとも気になるメディアと評価するが、保護者は「小田高通信」をもっとも気にしていることがわかる。また、「図書館だより」や「保健だより」など、比較的高く評価されており、工夫次第で魅力的な広報が出せる可能性を示している。また、ホームページについては、生徒・保護者ともに「行事の実施判断や休業の時のみ見る」という回答が多く、広報としての役割を十分果たせていない。また、保護者からは月間行事予定の更新が長くなされていないという指摘が多数あり、ホームページの管理を徹底する必要がある。

表4 生徒・保護者が感じる分掌別重要指導目標の達成度

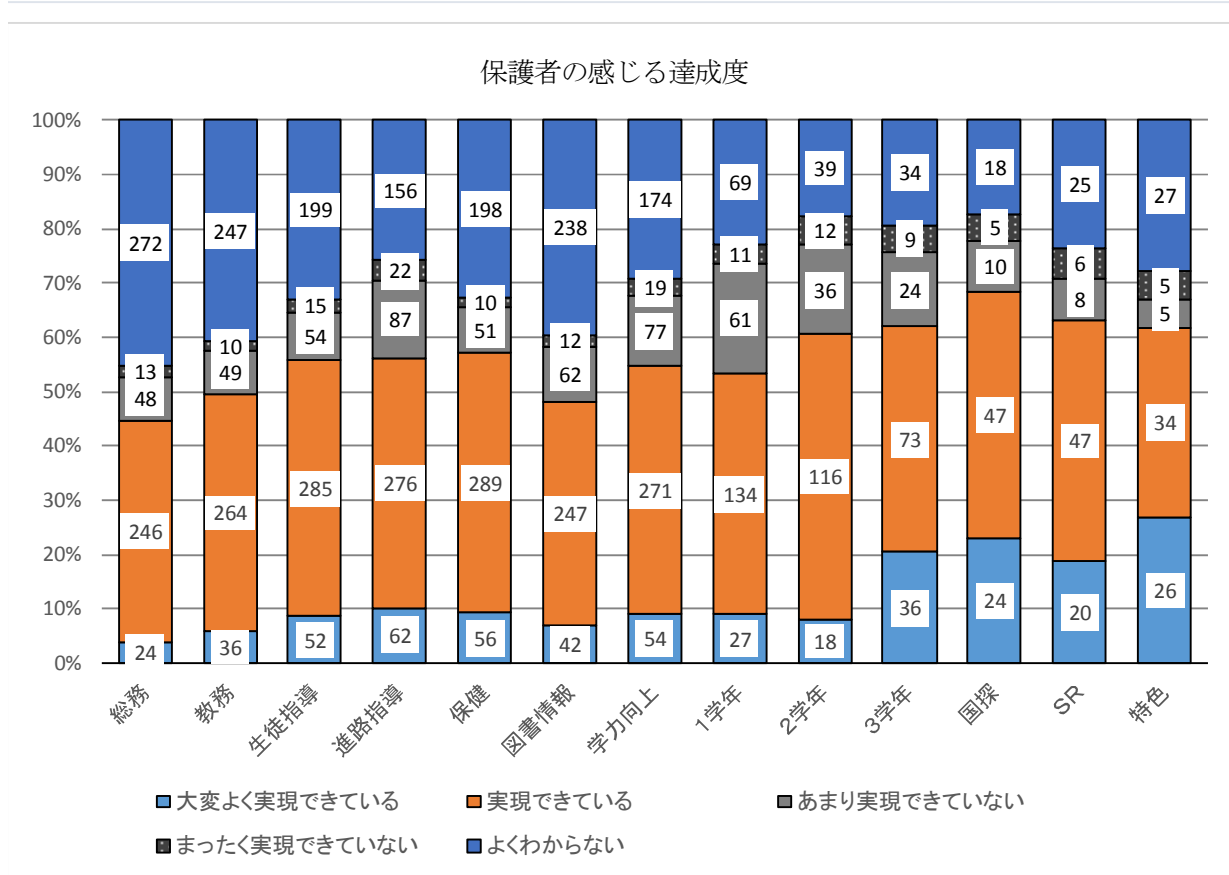
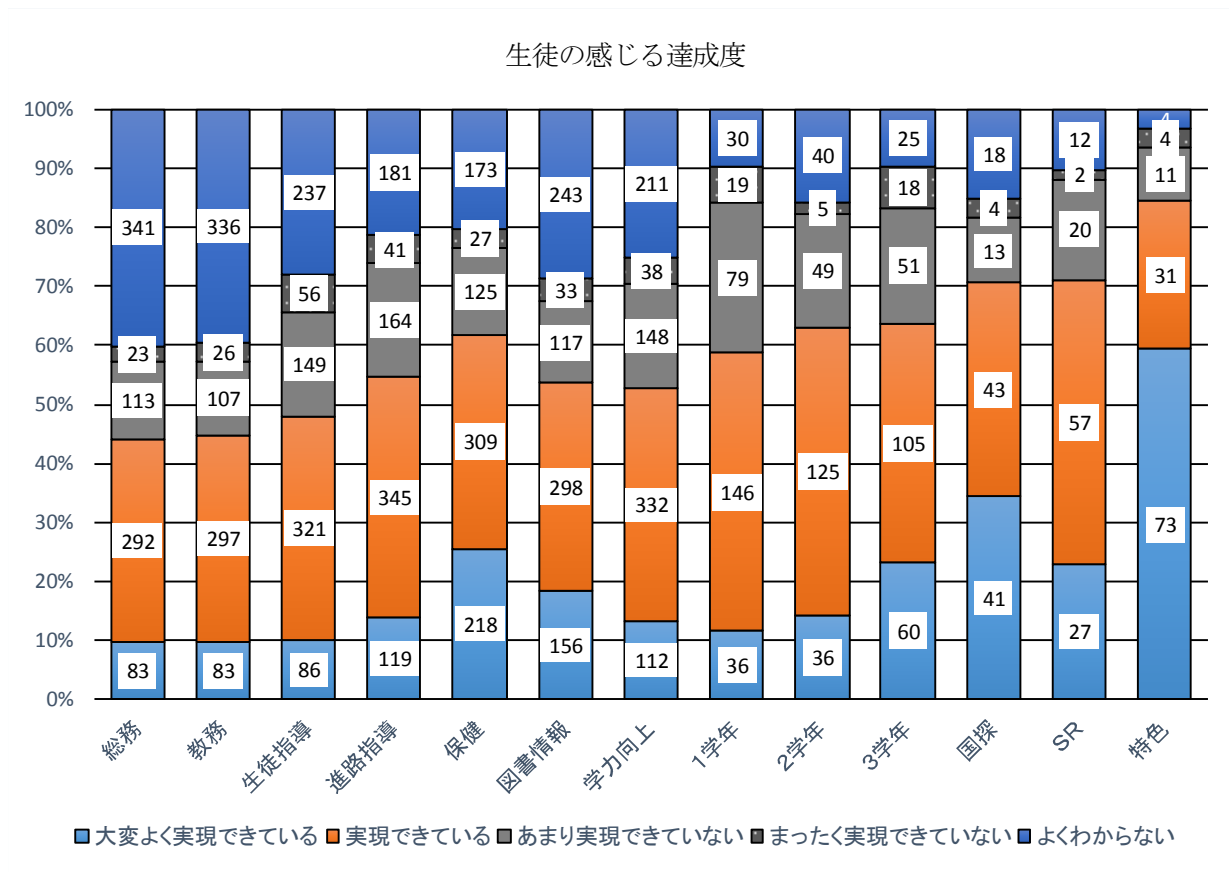
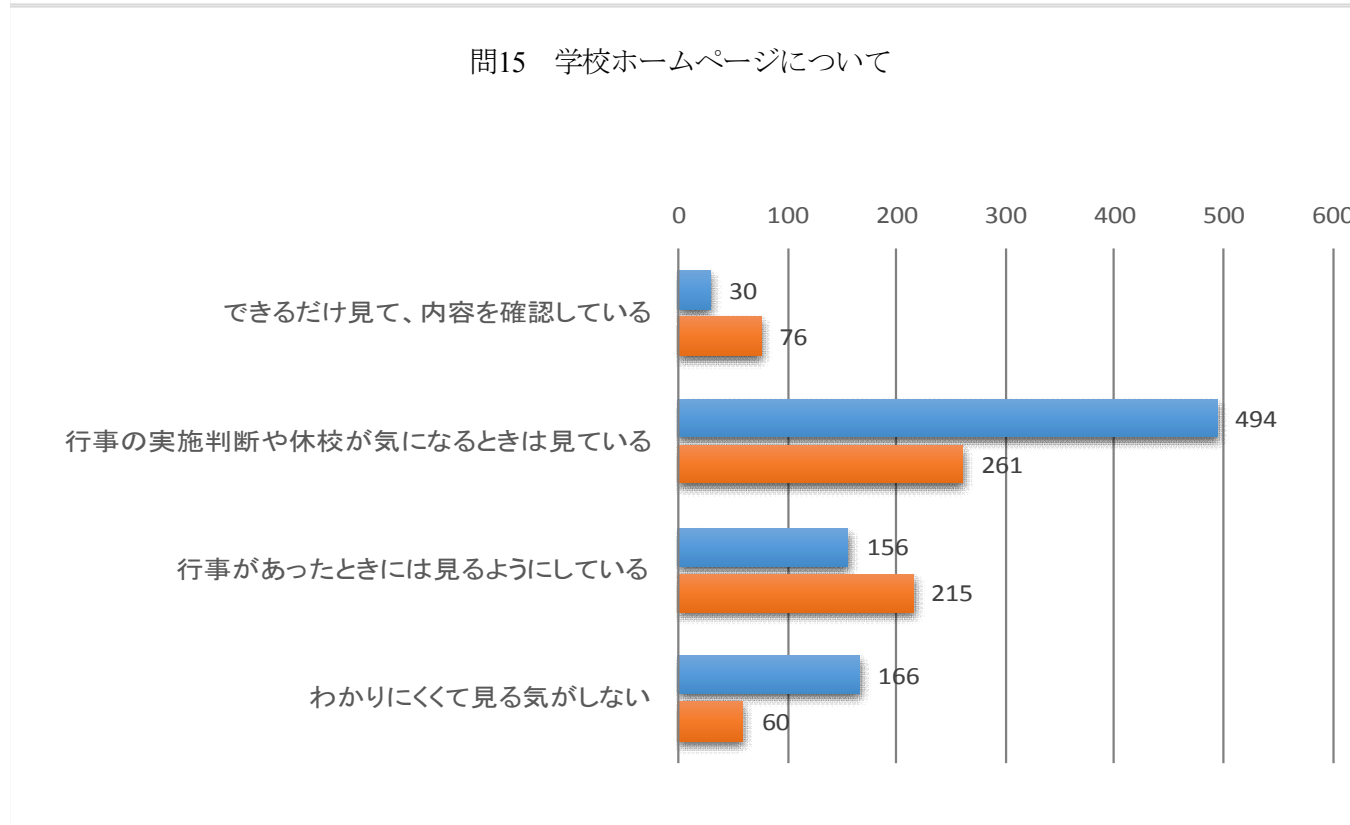
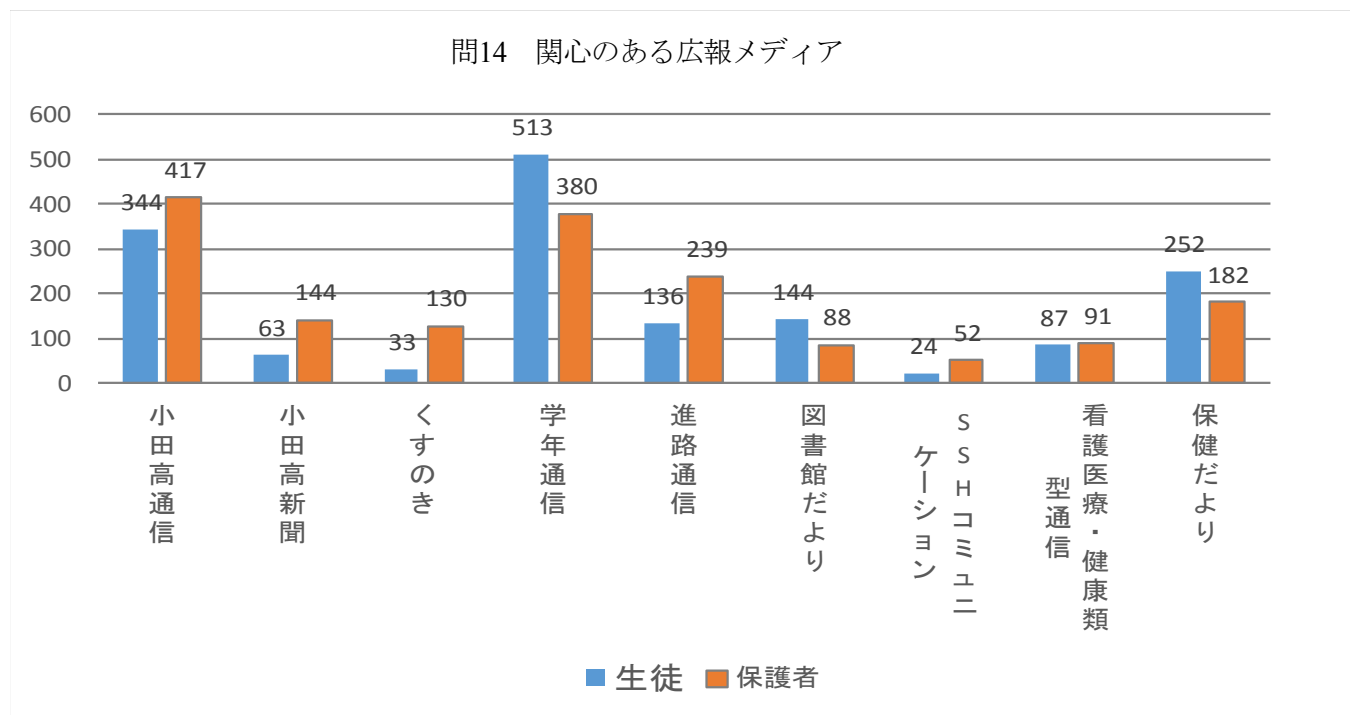


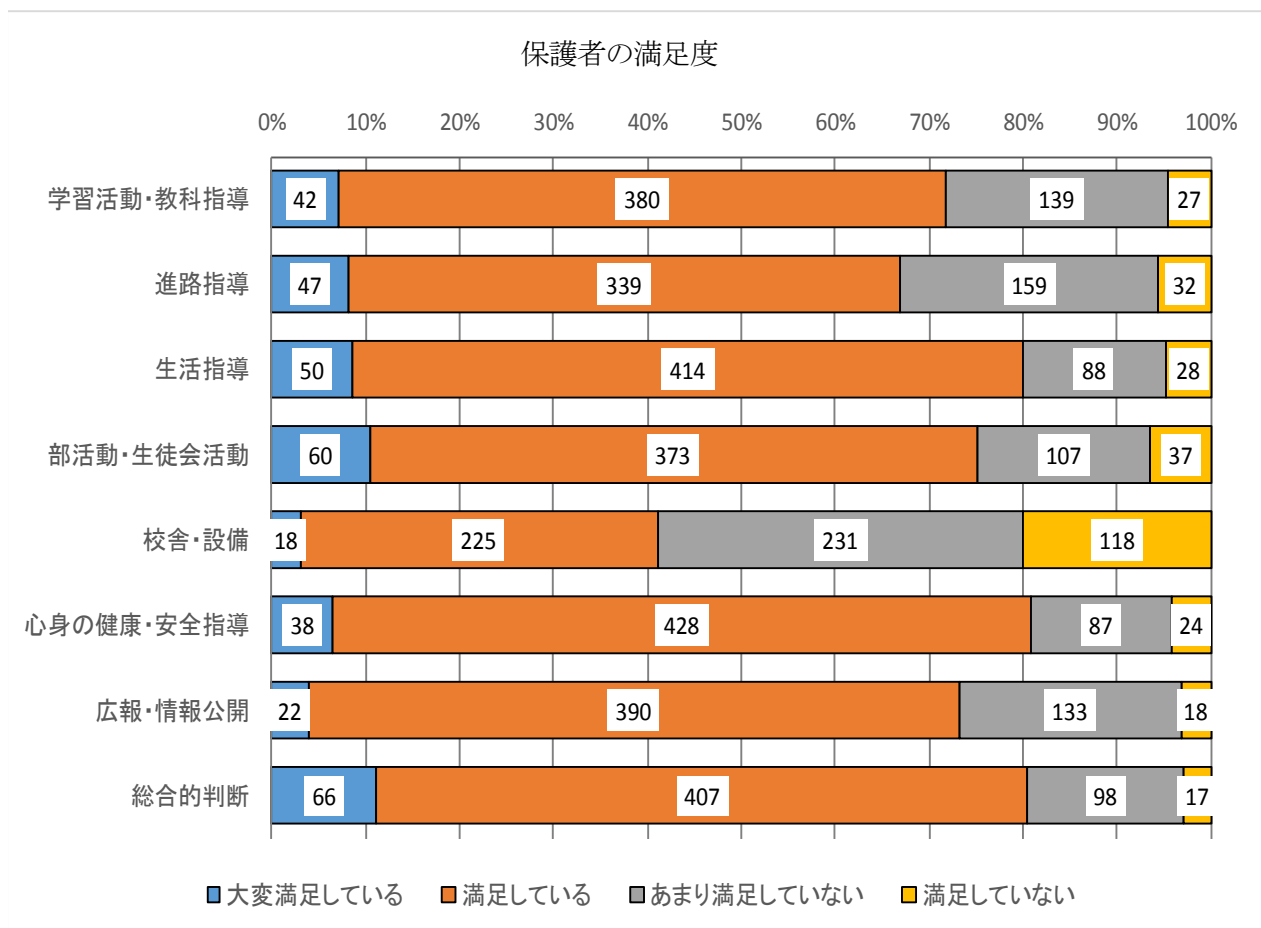
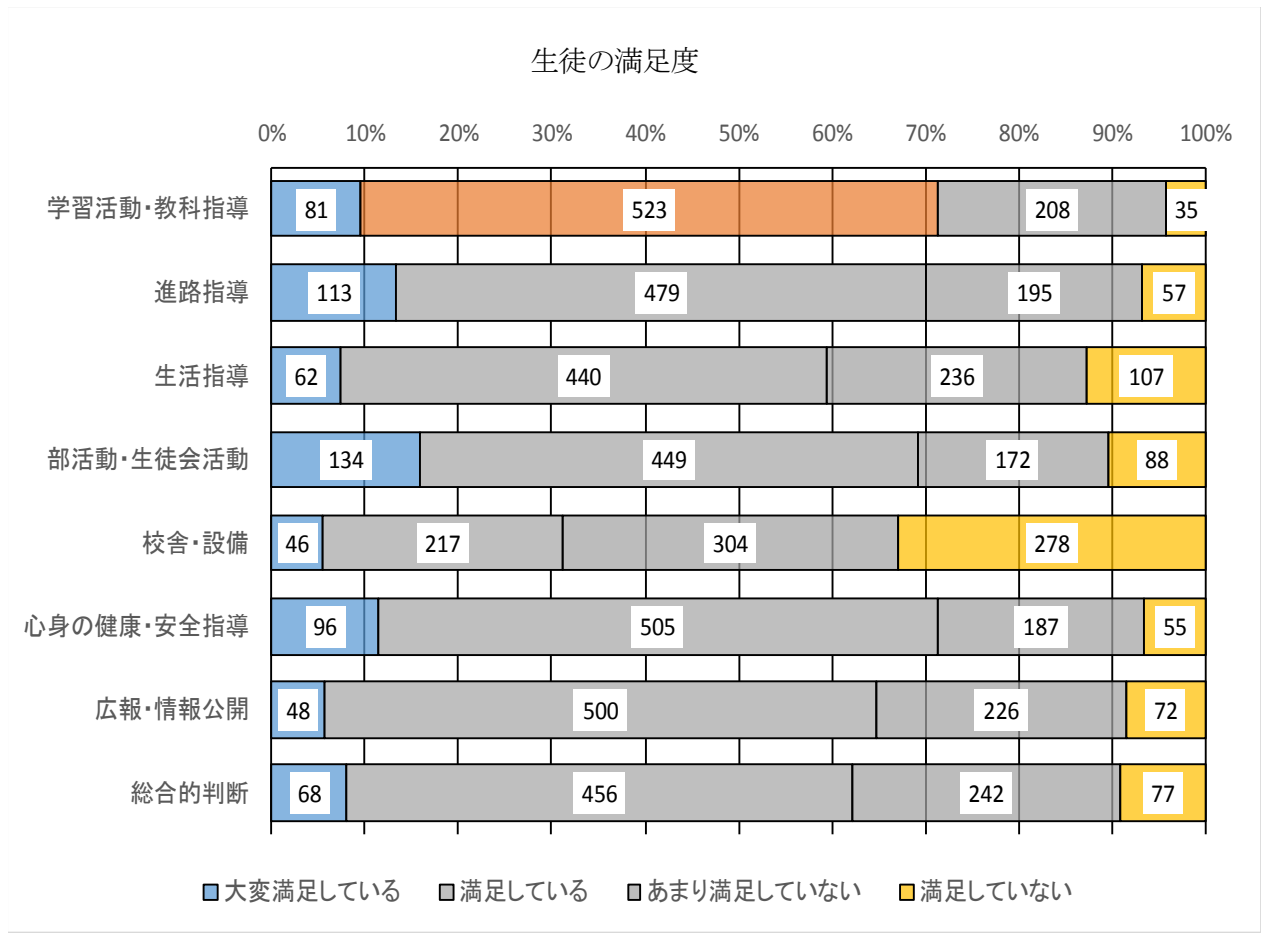
表5 広報活動について（複数回答）



満足度に関する項目では、質問23の全般的満足度で見ると（表7）、保護者は「たいへん満足」「満足」を合わせた割合が8割を超えているのに対して、生徒は61.1%（昨年比-6.1）と6割近くで、昨年から大幅に低下している。ただ、项目的に見ると、「学習指導」「進路指導」「部活動・生徒会活動」「健康・安全指導」でポジティブ評価が75%前後を維持しており、昨年の2項目から倍増している。

また、保護者からは「生徒指導」と「進路指導」に対する満足度で生徒と評価が逆転している。今年9月に空調設備が整えられたにもかかわらず施設・設備に対しては不満が圧倒的である。記述回答でも空調の使用法やトイレの老朽化に関する不満が多く述べられている。

表7 生徒・保護者の満足度



5 学校関係評価委員会による評価

平成28年2月20日、本校会議室で学校関係評価委員会が開催され、上記の各種アンケート結果に加え、校長、教頭、事務長、各部部長、学年主任、各科長から直接事情聴取をおこない、平成27年度学校評価に関して協議した。学校関係評価委員からは次のような意見が出された。

(1) 今年度実施されたアンケートでは各分掌の何がどのように実施され、具体的な成果として何を得られたかが明確でない。よって、生徒・保護者が「わからない」とする回答が増えるのは当然である。

(2) 各部の担当者から具体的に話を聞くことでようやく理解できた。目標だけでなく、具体的成果を生徒・保護者にも示した上でアンケートを実施すべきである。

(3) 今年度から重点指導方針に加え、評価目標も提示されるようになったが、具体性に欠ける目標が多い。目標を立てるにあたっては、誰が、何時までに、何を、どれだけやるかを明らかにし、中間評価では何が出来ていて、何が出来ていないかをもとに評価しなければ意味がない。

(4) 評価目標には客観的な評価が可能になる外部指標を取り入れる必要がある。内部指標ではどうしても評価が甘くなりがちである。

(5) 学校の立てる目標は内向き過ぎる。たとえば、ホームページも生徒・保護者だけではなく、よく知らない人たちに小田高を知ってもらう入口としてふさわしいかどうか、検討すべきである。また、減災避難訓練についても、地域社会との連携を視野に入れて実施して欲しい。

(6) 各分掌の指導目標はわかるが、学校全体として何をめざしていくのかといったグランドプランがわからない。

(7) 保護者からは厳しい意見が寄せられているが、意見のある内が華である。これを大事にしていかないと、保護者の気持ちが学校から離れていくことになる。

また、保護者から寄せられた意見の一部については教頭および担当者から次のような回答を得た。

(問) 来年度の文化祭をアルカイクホールに実施することには異論もあるようだが？

(答) 今回のアンケート後実施後に開催された育友会役員会でも経緯を報告した。また、生徒会でも検討を続けており、その内容は生徒総会でも報告される予定である。

(問) 新設された空調が有効に使われていないという指摘もある。

(答) 耐震工事の遅れから、空調設置が夏休みにずれ込み、十分に活用できなかった。また、予算的には空調の暖房利用は難しい。

(問) 校則が厳しいという意見がある。

(答) 逆に指導が甘いという意見もあり、対応が悩ましい。携帯使用の問題については現在生徒会が中心になってアンケートを実施しており、生徒会から学校に対して申し入れがあるのではないかと。

(問) 施設面については、学校だけで対応が難しいと思うが、できる範囲のこともあるのではないかと。

(答) 下足箱や生徒個人ロッカーについては、なかなか難しい。自転車置き場の照明についてはアンケートの後、すぐに実施した。

(問) 「やかん指導」というのはどういうものか。

(答) 本校で30年以上実施している、日番が昼食時にお茶を校務員室に取りに行く仕事のことです。毎昼時間に1～3年の学年主任が立ち会って直接生徒を指導している。耐震工事で校務員室が使えなくなって昨年度は休止していたが、本年度は再度検討の上再開した。

(問) 生徒の意見を聞く必要もあるのではないかと。

(答) 生徒については「生活実態調査」や「授業評価アンケート」等の各種アンケートがあるので今回の学校評価に関するアンケートでは実施しなかった。こんご再検討したい。なお、生徒会では「意見箱」を設置して生徒意見の汲み上げをおこなっている。

これらの討議・質疑を踏まえ、今後はより具体的な目標を設け、その実施過程が職員・生徒・保護者に「見える形」にするとともに、客観的な外部評価基準を導入し、有効な学校評価を実施することを学校に求めていくことで、会議を終了した。

資料編

資料1 職員に対するアンケート

平成27年度 学校評価アンケート（教職員用）

第1問 この一年間校内の各部署で重点的に実施していく項目について、◎で示した具体的目標を参考にし、回答用紙に評価を記入し、評価する点、改善を要する点を今後の本校の教育活動に資する形で出来るだけ具体的に回答して下さい。

「よくできている」と思う場合は [4] を、
「どちらかといえばできている」と思う場合は [3] を、
「あまりできていない」と思う場合は [2] を、
「まったくできていない」と思う場合は [1] を、
「よくわからない」と思う場合は [0] を記入する。

(※分掌別重点目標について、本文中の「2」に示したので省略)

第2問 次の項目に対して、先生方ご自身の評価を次の要領で回答して下さい。

内容に対して「はい」の場合は 4 を
「どちらかといえばはい」の場合は 3 を
「どちらかといえばいいえ」の場合は 2 を
「いいえ」の場合は 1 を評価欄に記入する

【生徒指導について】

- 1 私は、3年間を通して、教育目標を達成するために教科・科目の連携を取るよう努めている。
- 2 私は、実験、観察、研究発表など体験的な活動も重視する教科指導を展開している。
- 3 私は、生徒に1年間の授業の進捗について説明を行っている。
- 4 私は、評価の四つの観点を念頭において、授業や考査、評価を実施している。
- 5 私は、考査の内容を生徒の実態に合わせ、学力向上に有効なものとなるよう努めている。
- 6 私は、定期考査の得点だけでなく、多面的に学習の評価を行っている。
- 7 私は、生徒が学ぶ力や考える力を得られるように、授業を工夫している。
- 8 私は、カウンセリングマインドをもって生徒の悩みに耳を傾けるよう心がけている。
- 9 私は、進路情報を活用して生徒の向上心を高めるような工夫をしている。
- 10 私は、部活動の活性化に努力し、部員が抱える諸問題の解決を促している。

【学校業務について】

- 11 私は、学校業務において、同僚職員を互いを認め合い、支え合うことができる。
- 12 私は、仕事にやりがいを感じ、創造的に働いている。
- 13 私は、校務分掌の上の負担は適切であると感じている。
- 14 私は、校務分掌上で適切な評価を受けていると感じている。
- 15 私は、校内研修を積極的に受講し、教育課題の解決に生かしている。
- 16 私は、情報活用能力の向上について研修を行い授業や校務に生かしている。
- 17 私は、管理している教室や清掃箇所の点検をおこない、美化と安全に努めている。
- 18 私は、いつも明るさを持ち、ゆとりある心で温かく生徒や保護者に接している。
- 19 私は、本校が指定を受けている各種の事業に積極的に参加し、本校教育の向上に努めている。
- 20 私は、教員としての資質を磨くために常に研鑽に努めている。

第3問 下にあげる本校教育について、先生方の評価を次の要領で回答して下さい。

- | | | |
|-------------------|---|-----------|
| 内容に対して「はい」の場合は | 4 | を |
| 「どちらかといえばはい」の場合は | 3 | を |
| 「どちらかといえばいいえ」の場合は | 2 | を |
| 「いいえ」の場合は | 1 | を評価欄に記入する |

【本校教育について】

- 1 本校では、教師と生徒が信頼関係で結ばれ、互いに生き生きと教育活動をおこなっている。
- 2 本校では、教師間で授業方法について検討する機会を積極的に設けられている。
- 3 本校では、校則等の内容が、適切であるかどうかを、つねに見直している。
- 4 本校では、校則等の諸規則の意義について生徒や保護者に対して説明責任を果たしている。
- 5 本校では、人権に配慮し、行き過ぎた指導にならないような配慮がおこなわれている。
- 6 本校では、基本的な生活習慣が身につくよう学校をあげた指導がおこなわれている。
- 7 本校職員は、生徒一人ひとりに対応したきめ細かい進路指導をしている。
- 8 本校では、十分な防災教育がおこなわれている。
- 9 本校は、緊急時の対策や体制の見直しを常におこない、改善につとめている。
- 10 本校では、個々の生徒が抱える問題に職員全体で取り組む体制ができている。

【学校経営について】

- 11 本校職員は、職員間の対立が少なく、人間関係はよい。
- 12 本校の分掌は、教育目標達成や人材育成の観点から適切に配置されている。
- 13 本校では、個人の意見が学校経営の中に生かされる組織運営になっている。
- 14 S S H事業は本校の特色化に役立っている。
- 15 本校では、S S H事業に学校全体で取り組める体制ができている。
- 16 本校では、インスパイアハイスクール事業に学校全体で取り組める体制ができている。
- 17 本校では、学力向上推進サポート事業に学校全体で取り組める体制ができている。
- 18 本校では、適切な広報活動を通じて、学校の様子を広く認知されるような努力をしている。
- 19 本校では、問題点を正しく認識し、それを教育改善に生かすしくみがうまく働いている。
- 20 本校では常に新しい課題への取り組みを促し、これをサポートする体制ができている。

第4問 本校教育の改善に必要と思われるご意見をお書き下さい。

資料2 学校評価アンケート（保護者用）

1 校内の各部署の重要課題について

最初に、別紙に掲げた校内の各部署で重点的に実施している項目について質問します。
ここに掲げられた各部署の目標は実現されたと思いますか。

これについて、回答欄の1～13の欄に、次のように回答番号をマークしてください

- 「まったく実現できていない」という場合は [1] を、
「あまり実現できていない」という場合は [2] を、
「実現できている」という場合は [3] を、
「たいへんよく実現できている」という場合は [4] を、
「よくわからない」という場合は [0]（最下段）をマークする。

- 1 【総務部】の目標は実現できているか。
2 【教務部】の目標は実現できているか。
3 【生徒指導部】の目標は実現できているか。
4 【進路指導部】の目標は実現できているか。
5 【保健部】の目標は実現できているか。
6 【図書情報部】の目標は実現できているか。
7 【学力向上委員会】の目標は実現できているか。

ここからは、**選択項目**です。お子様が所属している項目のみに回答して下さい。

- 8（1年生のみ回答）【第1学年】の目標は実現できているか。
9（2年生のみ回答）【第2学年】の目標は実現できているか。
10（3年生のみ回答）【第3学年】の目標は実現できているか。
11（国際探求学科のみ回答）【国際探求学科】の目標は実現できているか。
12（SR科のみ回答）【サイエンスリサーチ科】の目標は実現できているか。
13（看護医療・健康類型のみ回答）【看護医療・健康類型】の目標は実現できているか。
（※分掌別重点目標について、本文中の「2」に示したので省略）

2 広報活動について

次の項目は、回答欄の14・15の欄に該当する回答番号のすべてをマークして下さい。

- 14 本校の各部署が発行している通信・新聞の中で、普段から気をつけて目を通しているものをすべてマークして下さい。

- | | |
|------------------|-------------------|
| [1] 小田高通信（学校） | [2] 小田高新聞（新聞委員会） |
| [3] くすのき（育友会） | [4] 学年通信（各学年） |
| [5] 進路通信（進路指導部） | [6] 図書館だより（図書委員会） |
| [7] SSHコミュニケーション | [8] 看護医療・健康類型通信 |
| [9] 保健だより（保健部） | |

- 15 本校のホームページについてうかがいます。

本校のホームページをどう思いますか。該当するものをすべてマークして下さい。

- [1] できるだけ見て、内容を確認している。
[2] 行事の実施判断や休校が気になるときは見ている。
[3] 行事があったときには見るようにしている。
[4] わかりにくくて見る気がしない。

3 満足度について

最後に、満足度の調査をします。下に挙げた項目に対する満足度を、回答欄の16～23の欄に次の要領でマークして下さい。

- 「満足していない」場合は [1] を、「あまり満足していない」場合は [2] を、
「満足している」場合は [3] を、「たいへん満足している」場合は [4] を

マークする。

- 16 学習活動・教科指導について
17 進路指導（就職・進学）指導について
18 生活指導について
19 部活動・生徒会活動について
20 校舎・設備について
21 心身の健康・安全指導について
22 広報・情報公開について
23 小田高校全般をトータルに判断して